様式第４号の１

平泉町立平泉中学校

教育的価値	具　体　の　項　目	教育課程
２　【かかわる】	⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	総合的な学習の時間

【題材】　平泉ガイド研修　および　平泉ガイド体験

【対象】　ガイド研修・体験　　第３学年（男子４１名、女子２８名、計６９名）
　　ガイド研修のみ　　第２学年（男子３２名、女子４０名、計７２名）

【実践の概要・詳細】

本校では、3 年間を通して「平泉学」を総合的な学習の時間の中心に位置付けている。

1 年次は「過去を知る」として、平泉の歴史や文化について、本校自作のテキスト等を活用して学ぶ。

2 年次以降は、年度ごとに生徒の学習状況や地域のニーズを考慮しながら内容を決めて取り組んでいる。最終的には平泉を知り、平泉の歴史や文化に誇りを持ち、地域を支える人材の育成につなげられる学習にしていきたい考え、教育実践をしている。

本年度は、2 年生で「今を見つめる」、3 年生で「未来に広げる」というテーマを設定した。

これまでの学習を活用して、平泉を紹介する「ガイド体験」を、①郷土への誇りと愛する心情を高める、②コミュニケーションの楽しさや大切さを実感させる、③地域の活動や地域の人とのつながりを大切にする心情を育む、ということをねらいとして設定して学習を進めた。

はじめに、「古都ひらいずみガイドの会」（所在地：平泉町字花立 208）の方々によるガイドを現地において見聞し、ガイドの姿勢や話す内容について学習した。その際、来年度にガイド体験をすることを見据えて、２年生も学習する対象とした。

その後、3 年生で「ガイド体験」に向けて、ポイントを絞って原稿作りや役割分担を行った。すべての史跡等を生徒一人で説明することは難しいため、いくつかのポイントを決めて、そこについてのガイドをする方法をとった。また、親子行事と関連させることで保護者に説明することにした。そうして経験を積んでいくことで、一般の観光客へも積極的にガイドできるように手立てを組んだ。さらに、震災復興支援の一環として昨年度から取り組んでいる募金活動も一緒に行うこととした。

【授業の流れと生徒の取り組み】

6月24日（月）に3年生、7月2日（火）に2年生がガイドの方々に案内していただいて、ガイドの仕方の実際を学んだ。（前頁写真）

その後、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、高館義経堂、柳之御所跡、平泉駅前の6ヶ所をポイントに決め、グループごとにガイド原稿作成・ガイド練習に取り組んだ。現地でのガイド学習をしたことによるイメージや、これまで学習してきた平泉の歴史や文化についての知識をもとに、自分たちの言葉で情報を再構築しているようすが見られた。（右上段写真）

10月12日（土）に保護者の協力をいただきながら、「ガイド体験」を実施した。当日は天候にも恵まれ、また観光客も多かった。はじめは保護者相手に戸惑いながら案内をしていた生徒も次第に慣れて余裕が出てきた。観光客にも積極的に声掛けをして、説明をするようになった。（下段写真）

また、同時に行った募金活動では、その趣旨を生徒が説明して協力をお願いすることができた。

【生徒の感想】

・私は無量光院跡のガイドをした。保護者の方々にガイドしていると、観光客も足を止めてうなずいて聞いてくれ、わかりやすく説明できていると思った。（男子）

・最初は相手にうまく伝えられなかったけど、手の動作をつけてみたらわかってもらえた。特にがんばったのは積極的に相手に話しかけることで、目標を超えられた。（男子）

・毛越寺を詳しく知ることから始まったガイド体験だった。当日は何回も断られましたが、聞いてくださっている観光客の方々に恥じないガイドを心がけた。（女子）

・暗記した文を棒読みするのでなく、自然な感じを出すように心がけた。ガイドを終わってから感謝の言葉をいただいたのがすごくうれしかった。（女子）

【まとめ】

・「平泉学」で学習してきた知識を再確認し、相手に伝えるということを意識した活動ができた。また、実際のガイドの方から学んだノウハウを活かした活動ができた。

・平泉の良さを、あまりにも身近すぎて感じられなかった生徒も、この取り組みによって地域に目を向け、好きになったという生徒が多かった。地域への誇りを高められた。

・ガイドの方々をはじめ、各史跡に関わる地元の方々とのつながりができた。地域の方々も中学生のこの取り組みに関心を持ち、生徒への地域の期待も感じられるようになった。

様式第４号の１

平泉町立平泉中学校

教育的価値	具　体　の　項　目	教育課程
２　【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事、・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	総合的な学習の時間

【題材】　夢あかり　ワークショップ

【対象】　第３学年（男子４１名、女子２８名、計６９名）

【実践の概要・詳細】

例年８月 16 日に行われる送り盆の行事に合わせて、地域の方々による「夢あかり」の活動に関わる学習を行った。町づくりを推進している NPO 法人「みんなでつくる平泉」や地域の婦人会のご協力を得ながら、灯篭づくりに取り組んだ。

７月１日（月）６校時　　夢あかりについて学ぶ
７月３日（水）5,6 校時　粘土延し、成形、型抜き
７月４日（木）４校時　　立体的に成形、乾燥
７月 10 日（水）5,6 校時 彩色
７月 11 日（木）3,4 校時 彩色、ラッカー塗装、乾燥

生徒に、「平泉がどんな町だったらよいか」というイメージを考えさせ、それを作品にするようにした。

実際には、灯篭の配置についても考える予定だったが、時間不足のために割愛した。

当日は、主催団体や大学生等のご協力をいただいて、毛越寺山門前に生徒の作品を配置していただいた。また、観自在王院跡や中尊寺通り、毛越寺通り、駅前通りにも灯篭が灯され、一部の生徒も一緒に見学したり蝋燭に火をつけたりした。

町づくりに関わる方々としても、中学生との連携を整え、将来の町づくりに関わる人材を育てたいという意図もあり、本校のねらいとも一致した取り組みを行うことができた。

【まとめ】

・町のイベントに関わることができたことで、単なるお祭りを楽しむという感覚ではなく、地域の方々と一緒にイベントを作り上げることの楽しさと苦労を知るきっかけとなった。
・将来に地域を担う人材育成を目指している町づくりの方々と連携して取り組めたことで、地域とのつながりが強くなり、学校と地域の距離感もせばまった。

様式第４号の１

平泉町立平泉中学校

教育的価値	具　体　の　項　目	教育課程
２　【かかわる】	⑰【自然災害の歴史】 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく。	総合的な学習の時間

【題材】　一関遊水地について学ぶ

【対象】　第２学年（男子３２名、女子４０名、計７２名）

【実践の概要・詳細】

６月４日（火）に、国土交通省岩手河川国道事務所一関出張所所長　加藤　孝　氏を講師にお招きし、一関遊水地についてお話をいただいた。

北上川の氾濫に対応するための一関遊水地は、地域にあって日ごろ目にできるものだが、生徒はほとんどその役割について知らないのが現状であった。

講演のおもな内容を以下に示す。

１．北上川の概要（主要都市が集中し、社会・経済・文化の基盤）
２．一関・平泉を襲った主な台風、洪水（写真等でその被害を紹介）
３．北上川の治水（上流のダムと、狐禅寺の狭窄帯との関連による遊水地の必要性と事業内容）
４．近年の大雨（集中豪雨）等の発生状況
５．災害への備え（地震、水害等への備えと身を守る手段）

生徒にとって身近にある施設・設備であるが、改めてその事業の重要性と災害への対応を確認することができた。

【生徒の感想】

・なぜそんなシステムがあるのか不思議に思っていたけど、今日の講演でその理由がよくわかった。（男子）
・洪水は 10 年に一度の割合で起きるということなので、避難する準備や災害に対する意識を高めたいと思った。（男子）
・遊水地があるのとないのとでは全然違うことがわかった。（男子）
・平泉では台風や洪水で何人もの人が亡くなっていることに衝撃を受けた。（女子）
・設備・施設に頼らず、災害に備え自分の命は自分で守らなければならないということが心に残った。（女子）
・「自助」自分の命を自分で守るのはわかりますが、「共助」でみんなが支えあって助けることもすごく大切だとわかった。（女子）

【まとめ】

・地域の防災設備と防災の大切さについて改めて認識を高めることができた。
・過去の災害を学ぶことで、自助、共助、公助が身近にも必要であることを確認した生徒が増えた。

様式第４号の１

平泉町立平泉中学校

教育的価値	具　体　の　項　目	教育課程
２　【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事、・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	特別活動 （学年行事）

【題材】　平泉大文字送り火　火床づくり

【対象】　第２学年（男子３２名、女子４０名、計７２名）

【実践の概要・詳細】

平泉大文字送り火は、戦没者追善、先祖代々精霊供養、東日本大震災で亡くなった方々の供養を目的として、送り盆の 8 月 16 日に行われている行事である。

約 50 年の歴史をもつ行事であり、本校生徒は 10 年前からこの火床の準備に協力してきた。

当初は地域の方が一人で準備をしていたが、高齢となったために昨年から観光協会が主体となって取り組んでいる。今年度も 2 年生がこの準備に参加した。

観光協会と準備に必要な物や中学生が手伝う部分などを打ち合わせした。また、2 年生（72 名）だけでは人数が足りないため、例年通り PTA の親子行事とタイアップさせて計画をした。

8 月 10 日（土）、晴天で気温・湿度ともに高い中、駒形峯（通称　大文字山）に「みんなでつくる平泉」の方々や役場・観光協会の方々を含めて総勢 160 名ほどが集まってこの活動を行った。

現地はかなり急な斜面があるため、薪や干し草、古着などを流れ作業で運び、震災の犠牲者を祭った塔婆を立てて火床を完成させた。

学年 PTA や観光協会との打ち合わせを行い、熱中症対策として飲料などを十分に準備したこともあり、体調を崩す生徒もなくこのボランティアを終了することができた。

大文字の意義や地域の行事を運営する方々と触れ合う中で、地域に住む人たちがどのような思いを持ち、そのためにどんな活動をしているのかを目の当たりにすることができたのが生徒にとって新鮮な感情だったようである。

「あの部分は自分が作った火床だ。」と感慨深く大文字の炎を眺める生徒も多かった。

来年度以降も、学年の取り組みとしてこのボランティアを行っていく予定である。

様式第４号の１

平泉町立平泉中学校

教育的価値	具　体　の　項　目	教育課程
３　【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成 23 年 3 月 11 日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	総合的な学習の時間

【題材】　復興教育講話

【対象】　第３学年（男子４１名、女子２８名、計６９名）
　　第２学年（男子３２名、女子４０名、計７２名）

【実践の概要・詳細】

12 月 2 日（月）、総合的な学習の時間に「東日本大震災巨大津波～そのとき学校は～」と題して、一関市立金沢小学校校長　山口道明　氏を講師に、復興教育に関わる講話をいただいた。震災当時は陸前高田市立米崎小学校に勤務されており、その際の生々しい状況を切々とした口調で語っていただいた。

講話の概要は、米崎小学校の紹介、震災による津波が押し寄せてくるときの状況と子どもたちの避難の様子、波が引いた後の町の状況と子たちの家族の安否、ボランティア活動をする子どもたち、卒業式・始業式の対応、被害にあった子どもたちの心のケア、についてお話しいただいた。

今回の講話は、こうした内容についての講話を初めて聞く 2･3 年生を対象とした。(1 年生は小学校で聴講していた。)

対象学年の生徒にとっては、詳しく話を伺うのはほぼ初めてであり、心に響く内容であった。

【生徒の感想】

・テレビで見たときは言葉が出なかった。地域の人がどうしてこんなに前向きでいられるのか、がんばれるのか。私たちのほうが勇気をもらった。(3 年女子)
・内陸に住んでいる私たちには考えられない恐怖があったのだとわかった。今まですぐそこにあったものがなくなってしまう、会えていた人が二度と会えなくなってしまう、そんなことが自分にも来るのだろうかと不安を感じた。(3 年男子)
・当時の記憶がよみがえりました。毎日会っているから僕らには家族を失った悲しさがわかりません。だからこそ、毎日を大切に過ごすべきだと思った。(3 年男子)
・今こうして生きていることも、家族・友達と一緒に過ごせていることも「当たり前」になっている。失ってから気づくのでは遅い。こうしていられることの幸せをもっと実感して、命の尊さや大切さを忘れないでいきたい。(2 年女子)

【まとめ】

・震災の記憶を薄れさせず、復興に向けて前向きに進む姿勢を失わないようにするためにも、こうした体験を語り継いでいくことの必要性と生きることの尊さを再確認させることができた。また、自助、共助、公助の実際について知ることができた。